

「旬の気象概況」資料の見方

令和6年4月
福島地方気象台

1. 掲載資料について

(1) 気象概況

- ・天候の特徴：旬の天候の特徴と、顕著現象発現時にはその旨を掲載する。
- ・日々の気圧配置：県内の天気に影響したじょう乱など、日別の気圧配置を掲載する。
- ・福島、若松、小名浜、白河の旬・月統計値：旬平均気温・旬降水量・旬間日照時間の観測値と平年差（比）、階級区分を掲載する。下旬号には月平均気温・月降水量・月間日照時間の観測値と平年差（比）、階級区分も掲載する。

(2) 県内主要地点の気象経過図

日平均気温・日最高気温・日最低気温・日照時間の日合計値・日降水量とこれらの平年値の経過のグラフを掲載する。

(3) 気象分布図

旬平均気温・旬降水量・旬間日照時間の観測値と平年差（比）及び階級区分を掲載する。冬期には旬降雪量・旬最深積雪の観測値と平年比及び階級区分も掲載する。

(4) 観測値に付す記号の意味

値：準正常値。統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。

値]：資料不足値。統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けている。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いないが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合がある。

×：欠測の場合、または欠測のために合計値や平均値等が求められない場合に表示する。

//：欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められない場合に表示する。

2. 平年値と平年差（比）の階級表現について

平年値は寒暖の目安などの基準として使われる値で、10年ごとに更新される。現在使用している平年値は1991～2020年の観測値から算出した値である。平年値は30年間の観測資料から計算されるが、30年に満たない場合でも8年以上の観測があれば累年平均値を求め、平年値として使用している。

階級区分は「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」の3階級で、それぞれの出現率は33.3%。

用語 基準	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
出現率	33.3% かなり低い(少ない) ←10%	33.3%	33.3% 10%→ かなり高い(多い)

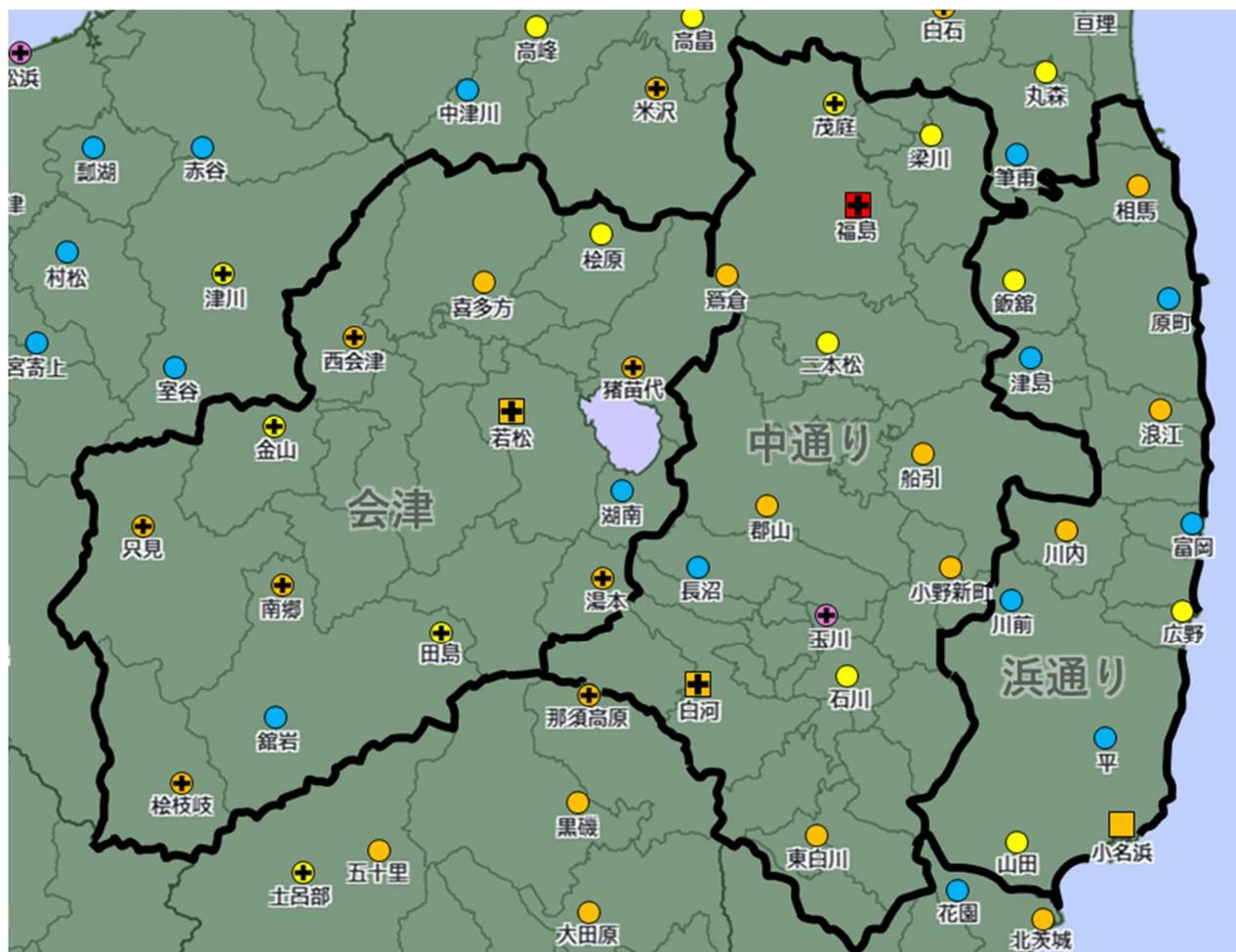
階級値	A	B	C	D	E	F
階級区分の範囲	値≤B	B<値≤C	C<値≤D	D<値≤E	E<値	

- ・Aは統計期間中（1991～2020年）の最低(少)値、Fは最高(多)値。
- ・低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現し、補足的に用いる。
- ・階級区分値を求めるための統計期間内の資料の分布に偏りがある場合は、平年値が階級区分の平年並に属さないことがある。

例) 福島の1月中旬の降水量の階級区分

かなり少ない≤0.2mm<少ない≤4.5mm<平年並≤11.7mm<多い≤40.0mm<かなり多い
平年値「15.2mm」は階級区分では「多い」となる。（統計期間 1991-2020年）

3. 福島県気象観測所配置図



シンボル	観測所の種類	観測要素
+	気象台	気温・降水量・風向風速・日照時間・湿度・気圧・積雪深
+	特別地域気象観測所	気温・降水量・風向風速・日照時間・湿度・気圧・積雪深
■	特別地域気象観測所	気温・降水量・風向風速・日照時間・湿度・気圧
●	地域気象観測所 (アメダス)	降水量
+	地域気象観測所 (アメダス)	気温・降水量・風向風速・積雪深
●	地域気象観測所 (アメダス)	気温・降水量・風向風速・日照時間
+	地域気象観測所 (アメダス)	気温・降水量・風向風速・日照時間・積雪深
●	地域気象観測所 (アメダス)	気温・降水量・風向風速・日照時間・湿度
+	地域気象観測所 (アメダス)	気温・降水量・風向風速・日照時間・湿度・積雪深